第 29 回　戦没者追悼・平和祈念式典　式辞

本日ここに、ご来賓各位、ご遺族の方々のご臨席と町民の皆さまのご参列のもと、第 29 回高森町戦没者追悼・平和祈念式典を挙行するにあたり、日本の平和と繁栄の礎となられました戦没者ならびに犠牲者のご霊位に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

さて、多くの尊い犠牲を重ねた末に迎えた終戦から 77 年の歳月が経過しました。

戦後、我が国は、郷土の発展のために尽くされた先人の皆さまのご努力により、悲惨な廃墟の中から、経済危機、自然災害など多くの国難を乗り越え、目覚しい発展を遂げ、また、国際社会においても平和を希求する国家として、世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。しかし、2 月 24 日に始まったロシアのウクライナ侵攻で、世界は戦後最大の危機を迎えていると感じざるを得ません。今でも、ウクライナでは、罪なき多くの市民の命や日常が奪われて、世界中では核兵器による抑止力なくして平和は維持できないという考えが勢いを増し、さらに、欧米諸国によるウクライナへの軍事支援やロシアへの経済制裁の拡大は、国内でも物価高騰などを招き、私たちの日常生活にも大きな影響を与えています。

5 月 1 日に当町へお迎えしたウクライナ 9 名の皆さんは、この地で戦禍を逃れ安心して生活ができると言っていただいている一方、日々ウクライナに残された身内の方の安否を確認しながら、早く戦争が終結し、自国に帰ることができるよう願っています。世界中の各国が、制裁の上書きをするばかりでなく、過去の教訓を元に、一つになって世界恒久平和のため取組むよう願うばかりです。

このような中、高森町では 8 月 5 日から 3 年ぶりとなる「平和への架け橋使節団」を広島市に派遣しました。参加された 53 名の団員は、地域内の多くの皆さまから寄せられた 12 万羽以上の「折鶴」と共に、広島平和祈念式典へ参加、語り部の方から貴重なお話をお聞きし、命の尊さや平和の大切さを胸に刻んで帰町されました。改めて、新型コロナウイルスの厳しい状況下でも、参加を決意された皆さまに、敬意と感謝を申し上げます。

その席上、広島市の松井市長は、「核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、広島や長崎の被爆地、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くす」

と宣言されています。高森町も想いを同じくする一員として、これまで「平和の架け橋使節団」として参加された多くの皆さまとともに、一人ひとりが平和に関心を持ち、過去の実相を学びながら命の尊さを知り、お互いを尊重し合う事、また、新型コロナウイルス感染症が蔓延している今だからこそ、思いやりの気持ちを持って、家庭で、学校で、職場で、そして地域で過ごしていただき、その気持ちを、次世代に引き継いでいただきたいと思います。

本日の平和祈念式典は、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、参加者を限定し、内容も簡素化しての開催となりましたが、今後も、戦争のない、核兵器のない、平和な世界の実現のために、地道ではあっても一歩ずつ努力を続けるとともに、世界恒久平和実現のため、全力を尽くしていくことをお誓い申し上げます。

終わりになりましたが、改めて、戦争の犠牲となられたご霊位に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族をはじめご参列の皆さまのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、式辞といたします。

令和 4 年 8 月 15 日　高森町長　壬生 照玄